



# 組織情報

## 専門職種の特性を活かし、組合員目線の運動を ＝ 運転部会第28回定期委員会 ＝

運転部会は、11月17日に北九州市で「第28回定期委員会」を開催し、専門職種で働く者の声を聴きながら、現場目線で検証し、施策チェック機能を最大限に発揮すべく、積極果敢に運動を展開していくことを確認した。

委員会には部会役員、委員、傍聴者含め、約60名が出席。議長に木戸幸生氏（小倉総合車両センター）を選出し議事が進められた。運転部会を代表してあいさつに立った堤清輝部会長（小倉総合車両センター）は、この1年間の取り組みを総括するとともに、①ワンマン運転拡大に対する検証、②検修職場の業務移管に伴う技術継承や技術力向上の課題、③運転士における拘束時間24時間を超えることができる行路作成の3点について問題提起を行い「運転士、検修職場を取り巻く環境は、ますます厳しさを増してきているが、組合員一人ひとりが自らの仕事と将来に確信を持ち、生き活きとした働きがいのある職場環境をつくっていこう」と、参加者に更なる奮起を促した。



また、来賓には、中央本部の宮路組織部長と大久保業務部長が出席、代表して宮路組織部長が、現在会社と協議中の2019年度年末手当交渉をはじめ、最近の情勢等を中心にあいさつを行った。

議事では常任委員会より、2018年度の活動経過報告、決算報告を行ったのち、2019年度の活動方針案、予算案を提起、23名の委員より①高齢者の労働条件改善、②各種効率化施策への対応、③女性乗務員及び女性検修社員が働きやすい職場環境の構築、④乗務員や検修社員に対する諸手当の新設、⑤制服の改善など、多岐にわたる発言が出され、部会役員及び中央本部からの答弁後、すべての議案を満場一致で決定した。また、役員改選では、堤部会長をはじめとする新役員体制を確立。専門職種の特性を活かし、現場で働く組合員の目線から提言する運転部会をめざし、各種施策に対して必要な提言を行っていくことを確認した。新役員体制については以下のとおり。

役 職	氏 名	職 場	役 職	氏 名	職 場
部 会 長	堤 清輝	小倉総合車両センター	常任委員	牛島 史人	熊本総合車両所
副部会長	東 龍喜	小倉運転区	"	熊谷 峻	熊本乗務センター
事 務 長	池崎 祐二	大分運輸センター	"	本島 敬治	博多新幹線乗務所
常任委員	小西 康彦	佐世保車両センター	"	石橋 広光	大分車両センター
"	野村 洋平	宮崎乗務センター	"	折田 大輔	熊本総合車両所
"	河村 大輔	直方運輸センター	"	中村 拓也	南福岡車両区
"	長友雄太郎	博多運転区			